
Today is his birthday

ふーつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Today is his birthday

【コード】

N3022D

【作者名】

ふるーつ

【あらすじ】

クリスマス当日、突然かかってきた電話。そして、その先に用意されていたものは？賑やかな話です。

聖夜。

そう言えば格好いいが、要するに、ある人物が生まれたといわれている日だ。

前々から、まわりが騒がしそうにしていたから、忘れていた訳じゃない。

そして、もう少し早く思い出すべきだった。あの万年新婚夫婦が、こんなイベントを逃すはずがないということ。

携帯が鳴ったとき、見慣れない番号を少し不審に思いつつも出てみると、いきなり元気のいい声が鼓膜を刺激した。

「新ちゃん！メリークリスマス！」

「……っ！か、母さん……なんでオレの番号知ってたんだよ……」

「ここが事務所じゃなくて良かった、と心底思うコナンだった。

「ああ、博士に聞いたのよ！さすがに、探偵事務所に電話しちゃ悪いかなーって思ってた。

「ねえ、そんなことより、私達今夜帰るわよ」

「はあ！？」

唐突すぎる予告に、思わず大声が出た。少し離れたところで哀が顔をしかめるが、コナンに気付く余裕はちよつとない。博士はコナンの脇で苦笑している。あの夫婦の行動には、20年近くつきあっているのであまり驚かない。

「だって、米国ではクリスマスは、家族で過ごす大イベントなのよ？私達だって、たまには家族水入らずしたいじゃない」

相変わらず、息子にというより恋人に対するような口調だ　　ま

あ、もう慣れたが。

「あのな、日本では恋人同士で過ごすのが常識なんだよ」

「でも、もう飛行機とつちやったし。久しぶりに我が家に帰りたいもの。じゃあ、19時着の便で帰るからね。」

みなまで言わせず、有希子は電話を切った。ちなみに、現在10時。

「いいわね、明るいお母さんで。」

哀の声は、笑いをかみ殺している。コナンはジト目で哀をにらんだ。それを受け流し、哀はソファに腰掛ける。

「まあ、わからなくもないけど。確かに海外。それもアメリカでは、クリスマスは家族で過ごすもの。いいんじゃない？たまには両親といっしょに家で過ごすのも。まあ、あなたは、別の心配をしているみたいだけど？」

コナンの顔をよんで、とりあえず話題をふってみる。

クリスマス。想い人がいる人間には、なんとも甘く、苦い響きだ。

結局、なんだかんだ言っているうちに日は落ち、コナンは仕方なく、家。工藤邸に向かった。博士の家に言ってくる、と言ったときの蘭の表情が何か気になったが。

(……不思議そうな顔だったよな、寂しいっていうより)

新一に会えず、コナンまでもいなくなったら、蘭はどれほど寂しがるだろう……と、そればかり気にしていたから。

しかし、そんな心配は、工藤邸を見た瞬間ふっとんだ。

「……………は!？」

多分、少ない時間での急ごしらえだろう。ほぼすべての部屋の明かりがついている上に、一応屋敷のまわりは電飾で飾られ、いくつかライトまで設置されている。

そして家の中にいたのは、両親、博士や哀に加え、少年探偵団の

面々だった。

「あ、コナン君、おっそーい！もうほとんど用意できちゃってるよー！」

「早く来いよ！ジュースが3種類買ってあるからよ」

そう言っつてコナンを手招きする子供達の頭には、三角帽子。博士など、サンタの服を着込み、あとはヒゲをつけて袋を持てば、立派にサンタクロースだ。

呆気にとられているコナンの後ろから、新たな声がした。

「あ、やっぱりコナン君も来てたのね。博士の家に行くつていつてたから、もしかして聞いてないのかって、心配しちゃったわ」

蘭が、さも当たり前という顔をして、大きな紙袋を手に戸口にいた。

「どーいう事だよ、これ！」

博士に耳打ちで聞くと、苦笑とともに答えが返ってきた。

「実は、1週間前に有希子さんから電話があつてな。クリスマスに帰国して工藤邸でパーティーをやるから、みんなを呼んでおいてくれ、と」

「えー!?」

「ちなみに、あなたには言うなとも言われてたのよね。びっくりさせたいからつて。……そして、彼女には絶対に予定をいれさせるなともね」

独り言のようにいう哀に、コナンは思わず蘭を見た。

「あの人たちなりに、あなたと彼女に気を遣ったのよ。今日までには新^{あなた}一は戻れないと思つてね」

蘭に予定を入れさせない事　それが第一条件だった。

園子と出かけるにしても、3人で事務所で過ごすにしても、蘭の寂寥感^{せきりょうかん}は多分埋まらないだろう。そしてその心中を悟らせないため

に、無理やり笑顔で過ごすのだ。 そんなことをさせれば、コナンがどれだけ胸を痛めるか……親として想像に難くない。

だったら、いっそ大勢集めてパーティーにしまおう、と、あの夫婦にしては珍しく(?) 気の利いた企画をしたのだった。元々、クリスマス当日にはこっそり帰るつもりで航空券を予約していたので、丁度よかつたらしい。

子供達に囲まれて、楽しそうにプレゼント交換などする蘭を見ながら、コナンの顔は自然とほころんでいった。

クリスマス。自分を裏切った人間さえ赦したといわれる、彼の誕生日とされる日。

こんなふうに誕生日を祝うなら、あながち場違いじゃないよな？

(後書き)

他の作者さんたちのクリスマス小説に触発されて、書いてみました。コナン(新一)と蘭のラブ話はもうあるので、視点を変えて・・・ということ、久しくごぶさたのあの夫婦に出てもらいました。ただ、今気付いたんですが、優作さん、名前すら出てない・・・！ちゃんといいますよ、最後のシーン。参加してますからね！

では、楽しんで頂けたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3022d/>

Today is his birthday

2010年10月8日14時41分発行